

平成28年度
中学校学力向上対策支援事業に係る

第1回中学校英語科 指導力向上協議会

H28年5月31日(火)
コンハルホール

本日の話題

- **英語教育改善推進プラン**
- **平成28年度中学校教育課程大分県研究協議会外国語部会協議主題**

大分県グローバル人材育成推進プラン (H26年10月)

- ① **挑戦意欲と責任感・使命感**
- ② **多様性を受け入れ協働する力**
- ③ **大分県や日本への深い理解**
- ④ **知識・教養に基づき、論理的に考え伝える力**
- ⑤ **英語力 (語学力)**

改善推進のテーマ

**英語を使って、
自分を語り、ふるさとを語る、
大分っ子の育成
～発信力の育成を目指した授業
改善を通して～**

改善推進のテーマ

実践的な英語力を育成する環境



発信力の育成+動機付け



主体的な学習意欲の向上

具体的取り組み I

小・中・高等学校の各学校段階での学習到達目標を明確にし、言語活動の充実を図る。

○「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標を設定⇒達成状況把握

○パフォーマンステストの実施

○生徒の主体的・協働的な学びにつながる指導と評価

具体的な取組 I

言語活動の充実

⇒ **生徒が英語を使用する**

機会の充実

⇒ **思考力・判断力・表現力**

の育成

知識・理解にとどまらず、活用へ



具体的な取組 I

生徒が表現（話す・書く）
している英語の内容は…？

自分の意見、考え

…**自己表現**は何%？

具体的な取組 I

「聞くこと」や「読むこと」を
通じて得た知識等に、自
ら体験や考え等と結びつけ
が活用し、「話すこと」や
「書くこと」を、発信す
ることを総合的に育成する
能実を総合的に育成する。指導を
4技充

中学校学習指導要領「外国語編」(H20年9月)

具体的取り組み Ⅱ

教員の英語力・指導力の向上を図る。

○中・高は、「英語担当教員指導力向上研修」を全員が受講

○「新大分スタンダード」 (中)

○「授業改善マイプラン」 (高)

具体的取り組み Ⅱ

英語力の向上

- 互いの考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を中心とする授業を構成
- 授業を実際のコミュニケーションの場とする



授業を英語で行うことを基本とする。

～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～ (H26.09.26.)

具体的な取組 II

指導力の向上⇒新大分スタンダード

主体的な学びの過程

- 学習へ動機付け
- 学習の見通しを立てる
- 自らの学びを振り返る (メタ認知)

深い学びの過程

- 知識・技能の習得
- 自らの体験や考え等と結びつけながら
- アウトプット場面の充実

対話的な学びの過程

Rapport

- $S \Leftrightarrow S \Leftrightarrow T$ によって思考を広げ深める
- **自己決定の場**
- 自己内対話によって考えを深める

新大分スタンダード

「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成するワンランク上の魅力ある授業

- 1 1時間完結型
「めあて」と「振り返り」のある授業
「課題」と「まとめ」のある授業
- 2 板書の構造化・板書とノートの一体化
- 3 習熟の程度に応じたきめ細かい指導の充実
- 4 問題解決的な展開の授業
(単元あるいは1単位時間)

大分スタンダードのブラッシュアップ

本時のゴール、目指す子どもの具体的な姿から単位時間の授業を見直す

※ねらいに対応した具体的な評価規準の設定

生徒指導の三機能を意識して

- ① 学ぶ意欲を引き出す課題設定 (考えてみたい・やってみみたい・やり甲斐がある)
- ② 課題解決のための情報収集(資料検索、実験・観察、体験、話し合い等)
- ③ ②の整理分析(比較・分類・序列化・類推・関連付け等)
- ④ ③で考えたことや分かったことのまとめ・発信・交流
- ⑤ 学習の成果を実感させる単元の振り返り及び評価



具体的取り組み Ⅲ

目標を達成するために、検証・改善のサイクルを確立する。

○授業における生徒の英語による言語活動時間の割合

○授業における教員の英語での発話

○「CAN-DOリスト」の設定・活用

具体的取り組み Ⅲ

目標達成のための検証・改善

- 英語教育実施状況調査の結果
- 全国的な学力調査（H31～）
- CAN-DOリスト達成状況の把握
→学習到達目標の見直し



指導方法の不断の見直し

二つ目の話題

- **平成28年度中学校教育
課程大分県研究協議会
外国語部会協議主題**

教育課程大分県研究協議会協議主題

「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能をバランス良く育成するとともに、**2技能以上を統合的に活用**し、情報や考えなどを的確に理解したり、目的に応じた方法で適切に伝えたりする思考力、判断力、表現力を育成する授業改善をどのように進めるか。

協議の視点

- 生徒が「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、主体的に学ぶ意欲や態度の育成を含めた具体的な指標形式の目標を設定し、生徒が達成感を得られるよう工夫しているか。
- 技能統合型の活動を通して、生徒が実社会や実生活の中で、自ら課題を発見し、主体的・協働的に探求し、考えや気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習・指導方法や評価を行ったか。

留意事項

＜報告書に添付する資料＞

○CAN-DO形式の学習目標を設定した学習指導案

○授業で使用した補助プリント等

○パフォーマンステストに用いた評価用紙等

パフォーマンステスト

- 注2) 音読テストは、本調査においては、「読むこと」の技能を評価するものとし、スピーキングテストに含めない。

(英語教育実施状況調査)

- ★ (2) 「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの状況

パフォーマンステスト

- 注3) 「ライティングテスト」は定期テストの出題も含む。ただし、学習指導要領に示す言語活動（「聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。」、「身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。」、「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。」）に沿って各学年の学習段階を考慮した評価とし、語彙、語法、文法知識のみを問うような問題は含めない。

ルーブリック(Rubric)とは

- 「目標に準拠した評価」のための「基準」つくりの方法論であり、評価規準と評価基準をマトリクス形式で示す評価指標。
- 知識・理解は客観テストで判断できたとしても、いわゆるパフォーマンス系（思考・判断、スキルなど）の評価は難しい。
- 「ルーブリック評価指標」は「それぞれの尺度に見られるパフォーマンスの特徴を示した記述語(descriptor)」と「達成の度合いを示す数値的な尺度(scale)」で、評価指標を設定しようという考え。

中3英語テスト、3年に1度実施へ 教員が面接も

- 全国の中学3年生を対象に2019年度から始まる英語の新式テストについて、文部科学省の専門家会議は25日、回答形式や採点など実施方法の概要を決めた。毎年4月の「全国学力調査」の一環として国語、数学と同じ日に実施。頻度は現在の理科と同様、3年に1度程度とする。
- 了承された実施案によると、新テストは生徒の苦手分野をつかんで授業の改善につなげることを狙いとする。原則としてすべての中3生が対象で、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を測る。回答はマークシートや記述式で、「話す」のみ学力調査と別の日に教員が面接で実施する。文科省は今後、面接に向けた教員研修の方法など詳細を詰める。
- また、専門家会議はこの調査とは別に、中3生の英語力の経年変化を国際的に比べられる形で知るため、抽出調査を導入することも決めた。